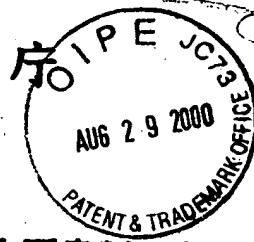


日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1999年 7月21日

出願番号
Application Number:

平成11年特許願第206096号

出願人
Applicant(s):

キヤノン株式会社

RECEIVED
OCT 12 2000
TC 2700 MAIL ROOM

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

RECEIVED
SEP 18 2000
TECHNOLOGY CENTER 2800

2000年 8月11日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造

【書類名】 特許願

【整理番号】 4031073

【提出日】 平成11年 7月21日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 ファクシミリ装置

【請求項の数】 3

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

【氏名】 吉田 武弘

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【代理人】

【識別番号】 100081880

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡部 敏彦

【電話番号】 03(3580)8464

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007065

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703713

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファクシミリ装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 リング型同報送信可能なファクシミリ装置において、メモリボックスに対応してサブアドレス信号及び通信仕様を登録する登録手段と、リング型同報送信のスタートを選択するスタート選択手段と、リング型同報受信の転送を選択するリング型同報受信転送選択手段と、リング型同報送信のスタートが選択されたときは発信元情報を付加し且つリング型同報受信の転送が選択されたときは発信元情報を付加しないように制御する制御手段とを有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】 前記制御手段は、リング型同報送信のスタートが選択されたときは、リング型同報送信である旨を示す情報とそのニックネームを示す情報とを発信元情報として付加するように制御することを特徴とする請求項 1 記載のファクシミリ装置。

【請求項 3】 前記制御手段は、前記メモリボックスに対応してサブアドレス信号及び前記通信仕様として所定宛先への転送とが前記登録手段に登録されているときに、該登録されている前記サブアドレス信号を受信すると発信元情報を付加し、前記所定宛先へ受信情報を転送するように制御することを特徴とする請求項 1 または 2 記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ファクシミリ装置、特に、リング型同報送信可能なファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来のリング型同報送信可能なファクシミリ装置は、送信時に発信元情報を送信するか否かを選択する選択手段を有し、前記発信元情報を付加することが選択されていると、通常の送信、メモリ同報送信、メモリ送信、転送のいずれの送信

においても前記発信元情報を付加する。一方、前記発信元情報を付加しないことが選択されていると、通常の送信、メモリ同報送信、メモリ送信、転送のいずれの送信においても前記発信元情報を付加しない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述した従来例にあつては、発信元情報を送信することを選択している状態においてリング型同報送信を実行すると、例えば、FAX (A) から FAX (B)、FAX (B) から FAX (C)、FAX (C) から FAX (D)、FAX (D) から FAX (E)、FAX (E) から FAX (A) と実行すると、FAX (E) がリング型同報受信情報を受信するとき、4つの発信元情報が付加され、原稿情報が上端から下端まで詰まっていると、カット記録紙への記録を考えると、2ページに分割されてしまう等の問題点があった。

【0004】

本発明は上述した従来の技術の有するこのような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、使い易いファクシミリ装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために請求項1記載のファクシミリ装置は、リング型同報送信可能なファクシミリ装置において、メモリボックスに対応してサブアドレス信号及び通信仕様を登録する登録手段と、リング型同報送信のスタートを選択するスタート選択手段と、リング型同報受信の転送を選択するリング型同報受信転送選択手段と、リング型同報送信のスタートが選択されたときは発信元情報を付加し且つリング型同報受信の転送が選択されたときは発信元情報を付加しないように制御する制御手段とを有することを特徴とする。

【0006】

また、上記目的を達成するために請求項2記載のファクシミリ装置は、請求項1記載のファクシミリ装置において、前記制御手段は、リング型同報送信のスタートが選択されたときは、リング型同報送信である旨を示す情報とそのニックネ

ームを示す情報とを発信元情報として付加するように制御することを特徴とする。

【0007】

更に、上記目的を達成するために請求項3記載のファクシミリ装置は、請求項1または2記載のファクシミリ装置において、前記制御手段は、前記メモリボックスに対応してサブアドレス信号及び前記通信仕様として所定宛先への転送とが前記登録手段に登録されているときに、該登録されている前記サブアドレス信号を受信すると発信元情報を付加し、前記所定宛先へ受信情報を転送するように制御することを特徴とする。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施の形態を図面に基づき説明する。

【0009】

図1は、本実施の形態に係るファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。同図において、2はNCU（網制御装置）で、電話網をデータ通信等に使用するために、その回線の端末に接続し、電話交換網の接続制御を行ったり、データ通信路への切り換えを行ったり、ループの保持等を行うものである。また、NCU2は、後述するバス26からの制御信号により電話回線2aを後述する電話機4側に接続（CMLオフ）したり、電話回線2aをファクシミリ装置側に接続（CMLオン）するものである。尚、通常状態では電話回線2aは、後述する電話機4側に接続されている。4は電話機である。

【0010】

6はハイブリット回路で、送信系の信号と受信系の信号とを分離し、後述する加算回路12からの送信信号をNCU2経由で電話回線2aに送出し、相手側からの信号をNCU2経由で信号線2cを介して受け取り、信号線6a経由で後述する変復調器8に送るものである。

【0011】

8は変復調器で、ITU-T勧告V. 8、V. 21、V. 27、V. 29、V. 17、V. 34に基づいた変調及び復調を行うものであり、後述するバス26

からの制御信号により各伝送モードが指定される。また、変復調器 8 は、後述するバス 26 からの送信信号を入力し、変調データを信号線 8 a に出力し、信号線 6 a に出力されている受信信号を入力し、復調データを後述するバス 26 に出力する。

【0012】

10 は発呼回路で、後述するバス 26 からの制御信号により電話番号情報を入力し、信号線 10 a に DTMF の選択信号を出力する。12 は加算回路で、信号線 8 a からの情報信号と信号線 10 a の情報信号とを入力し、それらの情報信号の加算結果を示す信号を信号線 12 a に出力する。

【0013】

14 は読取回路で、読み取りデータを後述するバス 26 に出力する。16 は記録回路で、後述するバス 26 に出力されている情報信号を順次 1 ライン毎に記録するものである。18 はメモリ回路で、ワーク用のメモリ（RAM：ランダムアクセスメモリ）として、更に読み取りデータの生情報或いは符号化した情報を格納したり、また、受信情報或いは復号化した情報等を、後述するバス 26 を介して格納するためのメモリとして使用するものである。また、メモリ回路 18 は、後述するバス 26 を介してメモリボックスに対応してサブアドレス信号及び通信仕様を登録するメモリを有している。ここでは、例えば、メモリ回路 18 に図 2 に示すように登録されているものとする。

【0014】

20 は操作部で、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、テンキー、*・#キー、セットキー、スタートキー、ストップキー、リング型同報送信スタートを選択するリング型同報送信スタート選択キー、リング型同報受信の転送を選択するリング型同報受信転送選択キー、メモリボックスへの登録を指定する登録キー、その他のファンクションキー等があり、押下された各キーのキー情報は後述するバス 26 に出力される。また、操作部 20 には、図示しない表示部があり、後述するバス 26 に出力されている情報信号を入力し、前記表示部に表示する。

【0015】

22 は CPU（中央処理装置）で、ファクシミリ装置全体の制御及びファクシ

ミリ伝送制御手順を実行するものであるが、この制御プログラムは後述するROM 24に格納される。24はROM（リードオンリーメモリ）で、後述するような制御プログラムが格納されている。26はバスで、各構成部品相互間を電氣的に接続している。

【0016】

CPU 22は、メモリボックスに対応してサブアドレス信号及び通信仕様を登録する登録手段と、リング型同報送信スタート選択手段と、リング型同報受信転送選択手段と、リング型同報送信のスタートが選択されたときは発信元情報を付加し且つリング型同報受信の転送が選択されたときは発信元情報を付加しないように制御する制御手段とを有している。

【0017】

そして、リング型同報送信のスタートが選択されているときは発信元情報を付加し、また、リング型同報受信転送時は発信元情報を付加しない。ここでリング型同報送信のスタートが選択されているときはリング型同報送信である旨を示す情報とそのニックネームを示す情報とを発信元情報として付加する。また、メモリボックスに対応してサブアドレス信号と通信仕様として所定宛先への転送とが登録されているときに、該登録されている前記サブアドレス信号を受信すると、受信元情報を付加し、前記所定宛先へ受信情報を転送する。

【0018】

以上の制御を行う制御プログラムがROM 24に格納されている。

【0019】

ここで、前記ニックネームを示す情報とは、例えば、「PTA回覧」等である。

【0020】

図3は、発信元情報の具体例を示す図である。

【0021】

図3（a）は、自機にてリング型同報送信のスタートが選択された場合であり、例えば、「リング型同報送信（PTA回覧）03-3111-2222 P1」という発信元情報を送り、その後、原稿情報を送信する。ここで、発信元情報

はページ毎に送信する。

【0022】

図3(b)は、リング型同報受信情報を転送する場合であり、発信元情報は何も付加しないで、メモリ受信したリング型同報受信情報をそのまま送信する。

【0023】

図3(c)は、メモリボックスに対応して所定宛先への転送を行う場合であり、例えば、「03-3111-2222 P1」という発信元情報を送り、その後、メモリ受信した転送情報を送信する。ここで、発信元情報はページ毎に送信する。

【0024】

次に、本実施の形態に係るファクシミリ装置の動作について、図4乃至図9のフローチャートに基づき説明する。

【0025】

図4において、ステップS402でバス26を介してメモリ回路18をイニシャライズする。次に、ステップS404でバス26を介して操作部20の表示部をクリアする。次に、ステップS406でバス26を介してNCU2のCMLをオフする。次に、ステップS408でバス26を介して操作部20の情報を入力し、メモリボックスへの登録が選択されたか否かを判断する。

【0026】

そして、前記ステップS408においてメモリボックスへの登録が選択されたと判断された場合は、ステップS410へ進んでバス26を介してメモリ回路18にメモリボックスに対応して、サブアドレス信号及び通信仕様を図2に示すように登録した後、ステップS412へ進む。また、前記ステップS408においてメモリボックスへの登録が選択されないと判断された場合は、前記ステップS410をスキップしてステップS412へ進む。

【0027】

ステップS412では、バス26を介して操作部20の情報を入力し、リング型同報送信のスタートが選択されたか否かを判断する。

【0028】

そして、前記ステップ S 4 1 2 においてリング型同報送信のスタートが選択されないと判断された場合は、ステップ S 4 1 4 へ進んでバス 2 6 を介して操作部 2 0 の情報を入力し、リング型同報受信の転送が選択されたか否かを判断する。

【0029】

そして、前記ステップ S 4 1 4 においてリング型同報受信の転送が選択されたと判断された場合は、図 6 のステップ S 4 2 6 へ、また、リング型同報受信の転送が選択されないと判断された場合は、図 8 のステップ S 4 4 0 へそれぞれ進む。

【0030】

また、前記ステップ S 4 1 2 においてリング型同報送信のスタートが選択されたと判断された場合は、ステップ S 4 1 6 へ進んでバス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオンする。次に、ステップ S 4 1 8 でバス 2 6 を介して発呼回路 1 0 を使用して宛先 A へ発呼した後、図 5 のステップ S 4 2 0 へ進む。

【0031】

図 5 において、ステップ S 4 2 0 で前手順を実行する。ここでは、サブアドレス信号として「1 2 3 4」を送信する。次に、ステップ S 4 2 2 で画像信号の送信を行う。ここでは、図 3 (a) の方法で発信元情報を送信する。次に、ステップ S 4 2 4 で後手順を実行した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0032】

図 6 において、ステップ S 4 2 6 で「P T A 回覧」のリング型同報受信情報がメモリ回路 1 8 にあるか否かを判断する。

【0033】

そして、前記ステップ S 4 2 6 において「P T A 回覧」のリング型同報受信情報がメモリ回路 1 8 にないと判断された場合はステップ S 4 2 8 へ進んで、バス 2 6 を介して操作部 2 0 の表示部に「リング型同報受信情報がありません」というメッセージを表示した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0034】

尚、前記ステップ S 4 2 8 において表示した内容は、何らかのキー操作により消去する。

【0035】

また、前記ステップS426において「PTA回覧」のリング型同報受信情報がメモリ回路18にあると判断された場合はステップS430へ進んで、バス26を介してNCU2のCMLをオンする。次に、ステップS432でバス26を介して発呼回路10を使用して宛先Aへ発呼する。次に、ステップS434で前手順を実行する。ここでは、サブアドレス信号として「1234」を送信する。前記ステップS434の処理を実行した後は、図7のステップS436へ進む。

【0036】

図7において、ステップS436で「PTA回覧」としてメモリ受信している情報を送信する。ここでは、図3(b)の方法で発信元情報は送信しない。次に、ステップS438で後手順を実行した後、前記図4のステップS406へ戻る。

【0037】

図8において、ステップS440でファクシミリ受信が選択されたか否かを判断する。

【0038】

そして、前記ステップS440においてファクシミリ受信が選択されないと判断された場合は、ステップS442へ進んで、その他の処理を実行した後、前記図4のステップS406へ戻る。

【0039】

また、前記ステップS440においてファクシミリ受信が選択されたと判断された場合は、ステップS444へ進んで、バス26を介してNCU2のCMLをオンする。次に、ステップS446で前手順を実行する。ここでは、「サブアドレス信号の受信機能あり」を通知する。

【0040】

次に、ステップS448でサブアドレス信号を受信したか否かを判断する。

【0041】

そして、前記ステップS448においてサブアドレス信号を受信しないと判断された場合は、ステップS450へ進んで、画像信号の受信／記録を行い、次の

ステップ S 4 5 2 で後手順を実行した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0042】

また、前記ステップ S 4 4 8 においてサブアドレス信号を受信したと判断された場合は、図 9 のステップ S 4 5 4 へ進む。

【0043】

図 9 において、ステップ S 4 5 4 でサブアドレス信号は「1 2 3 4」か否かを判断する。

【0044】

そして、前記ステップ S 4 5 4 において、サブアドレス信号は「1 2 3 4」であると判断された場合は、次のステップ S 4 5 6 へ進んで、「PTA 回覧」としてメモリ受信する。次に、ステップ S 4 5 8 で後手順を実行した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0045】

また、前記ステップ S 4 5 4 において、サブアドレス信号は「1 2 3 4」でないと判断された場合は、ステップ S 4 6 0 へ進んで、サブアドレス信号は「5 6 7 8」か否かを判断する。

【0046】

そして、前記ステップ S 4 6 0 において、サブアドレス信号は「5 6 7 8」でないと判断された場合は、ステップ S 4 6 2 へ進んで、受信したサブアドレス信号に対応した通信制御を実行した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0047】

また、前記ステップ S 4 6 0 において、サブアドレス信号は「5 6 7 8」であると判断された場合は、ステップ S 4 6 4 へ進んで、リング型同報送信の受信を行い、次のステップ S 4 6 6 で後手順を実行する。次に、ステップ S 4 6 8 でバス 2 6 を介して NCU 2 の CML をオフする。次に、ステップ S 4 7 0 で 1 分間ウェイト（待機）し、次のステップ S 4 7 2 でバス 2 6 を介して NCU 2 の CML をオンする。

【0048】

次に、ステップ S 4 7 4 でバス 2 6 を介して発呼回路 1 0 を使用して宛先 B へ

発呼する。次に、ステップ S 4 7 6 で前手順を実行する。ここではサブアドレス信号を送信しない。次に、ステップ S 4 7 8 で、今、メモリ受信した情報を送信する。ここでは、図 3 (c) の方法で発信元情報を送信する。次に、ステップ S 4 8 0 で後手順を実行した後、前記図 4 のステップ S 4 0 6 へ戻る。

【0049】

【発明の効果】

以上詳述したように本発明の請求項 1、2 のファクシミリ装置によれば、リング型同報送信を実行するときに、リング型同報送信をスタートした発信元情報及びリング型同報送信である旨を示す情報とそのニックネームを示す情報とを送信することができ、また、リング型同報受信の転送時には、発信元情報の付加がないので、全てのリング型同報送信を行うファクシミリ装置のユーザは、リング型同報送信であること及びリング型同報送信をスタートした人が分かり、更に、受信情報をカット記録紙に記録するときにおいても、2 ページに分割されることがなくなり、非常に使い易いという効果を奏する。

【0050】

また、本発明の請求項 3 のファクシミリ装置によれば、リング型同報送信でないサブアドレス信号による受信情報の転送指定であると、複数回の転送はないので、発信元情報を付加しても、カット記録紙に記録する場合でも、2 ページに分割して記録するということはなく且つ転送情報を受信したユーザが誰からの送信であるかを認識することができ、非常に使い易いという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【図 2】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置におけるメモリ回路に登録されているデータの具体例を示す図である。

【図 3】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における発信元情報の付加の具

体例を示す図である。

【図4】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

【図5】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

【図6】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

【図7】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

【図8】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

【図9】

本発明の一実施の形態に係るファクシミリ装置における動作の流れを示すフローチャートである。

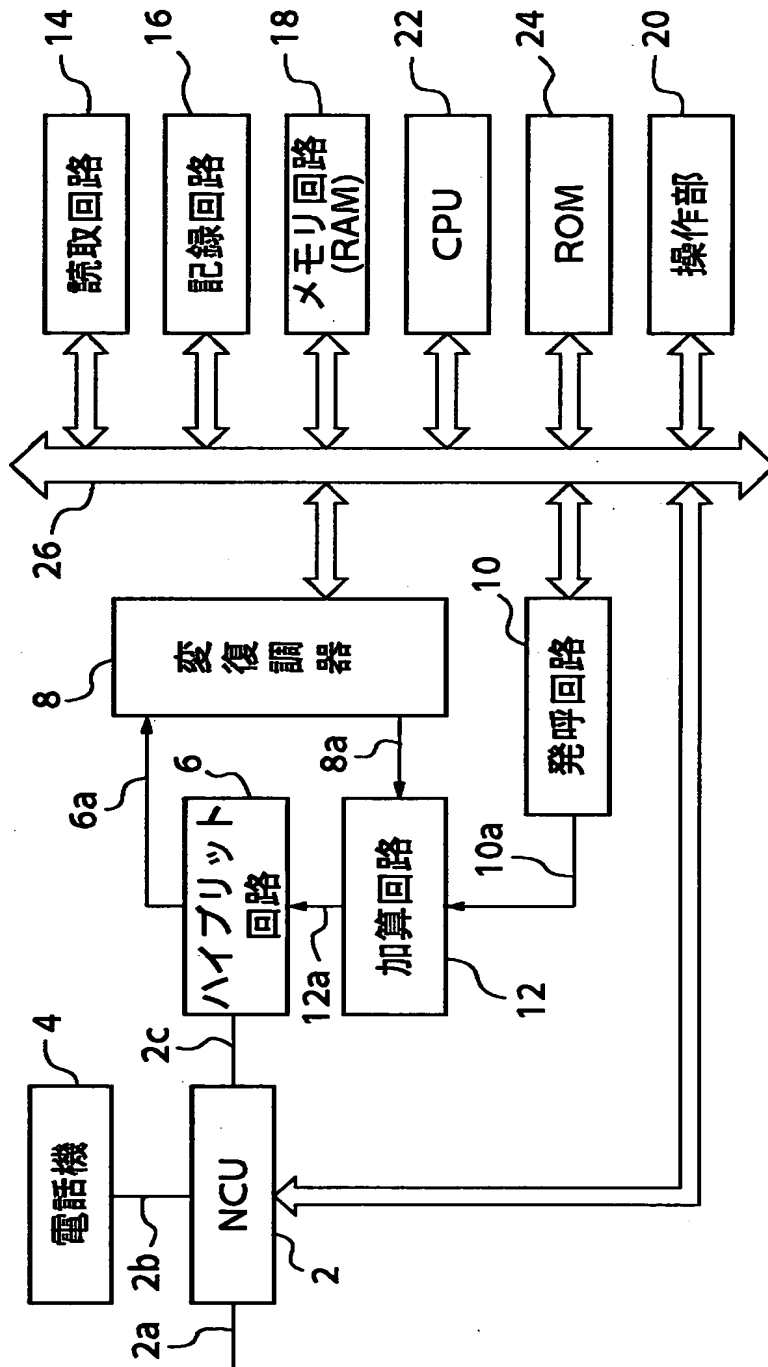
【符号の説明】

- 2 NCU（網制御装置）
- 2 a 信号線
- 2 b 信号線
- 2 c 信号線
- 4 電話機
- 6 ハイブリット回路
- 6 a 信号線
- 8 変復調器
- 8 a 信号線

- 1 0 発呼回路
- 1 0 a 信号線
- 1 2 加算回路
- 1 2 a 信号線
- 1 4 読取回路
- 1 6 記録回路
- 1 8 メモリ回路 (RAM: ランダムアクセスメモリ)
- 2 0 操作部
- 2 2 CPU (中央処理装置)
- 2 4 ROM (リードオンリーメモリ)

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

メリボックス番号 -	サブアドレス番号	通信仕様
01	1234	リング型同報送信で宛先Aへ転送する ネットワークはPTA回線とする
02	5678	宛先Bへ転送する

【図 3】

(a)

リッパ 型同報送信(PTA回覧)	03-3111-2222	P1
------------------	--------------	----

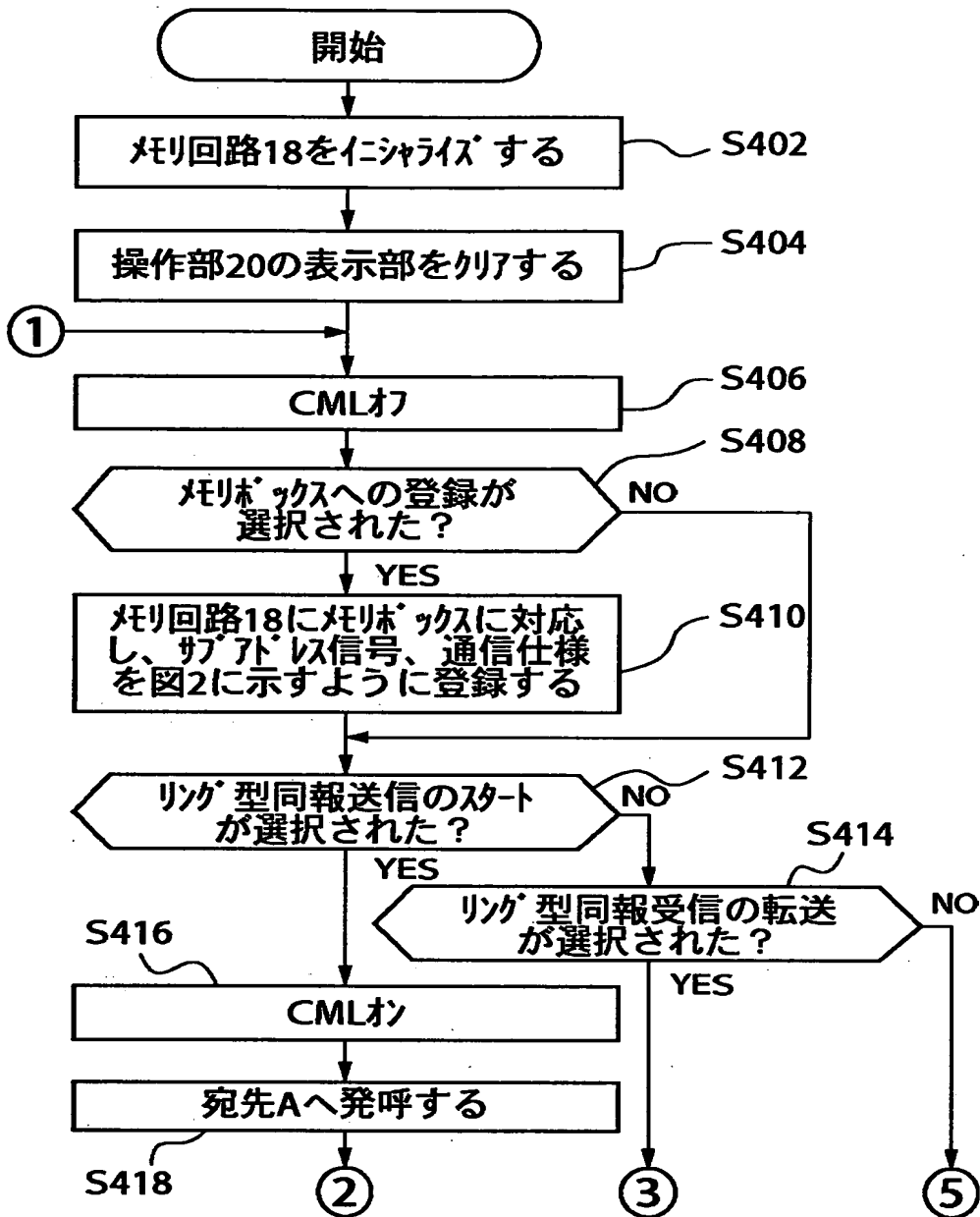
(b)

--

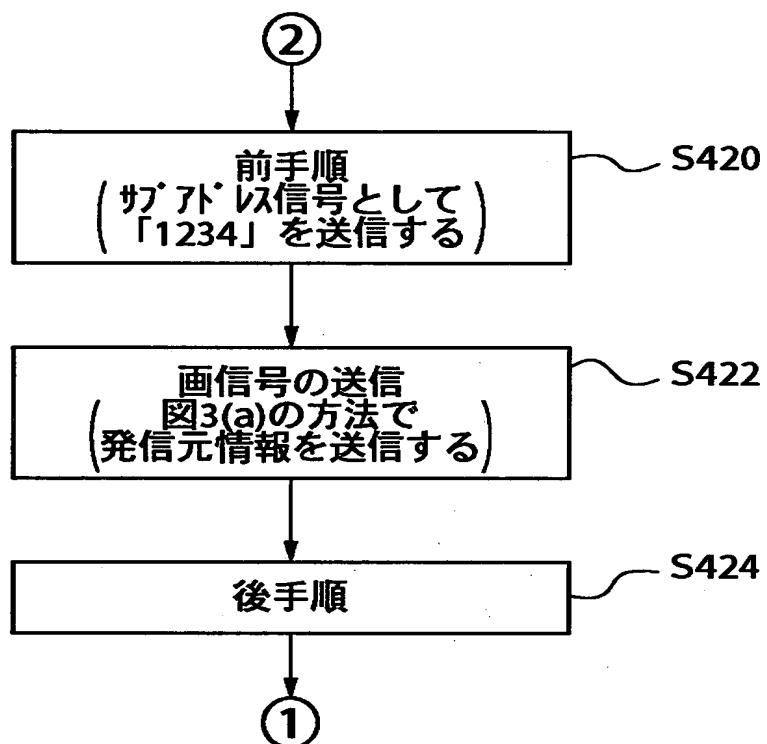
(c)

	03-3111-2222	P1
--	--------------	----

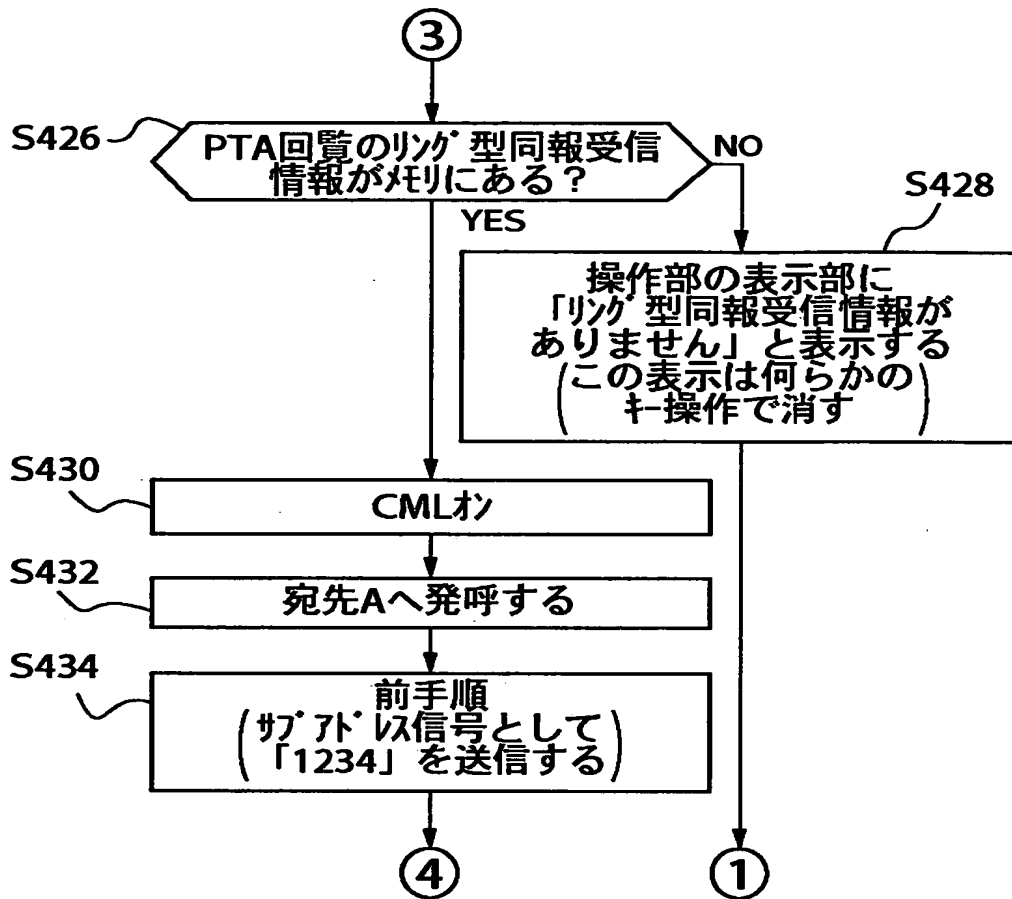
【図4】



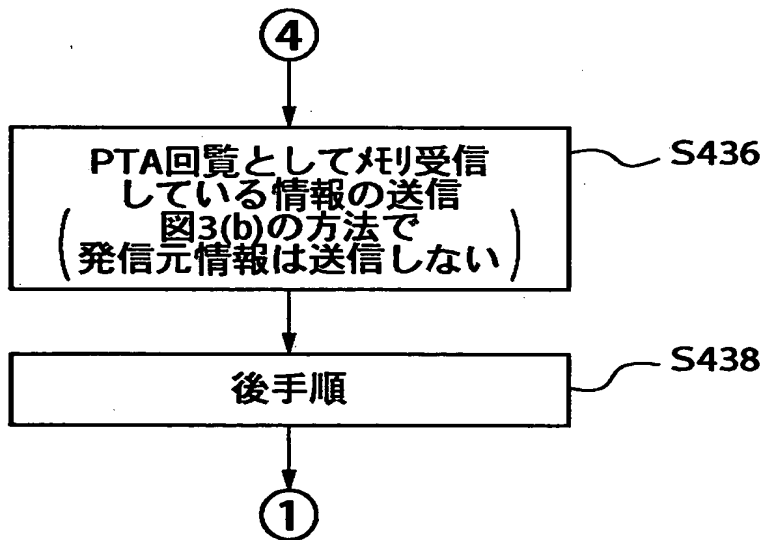
【図 5】



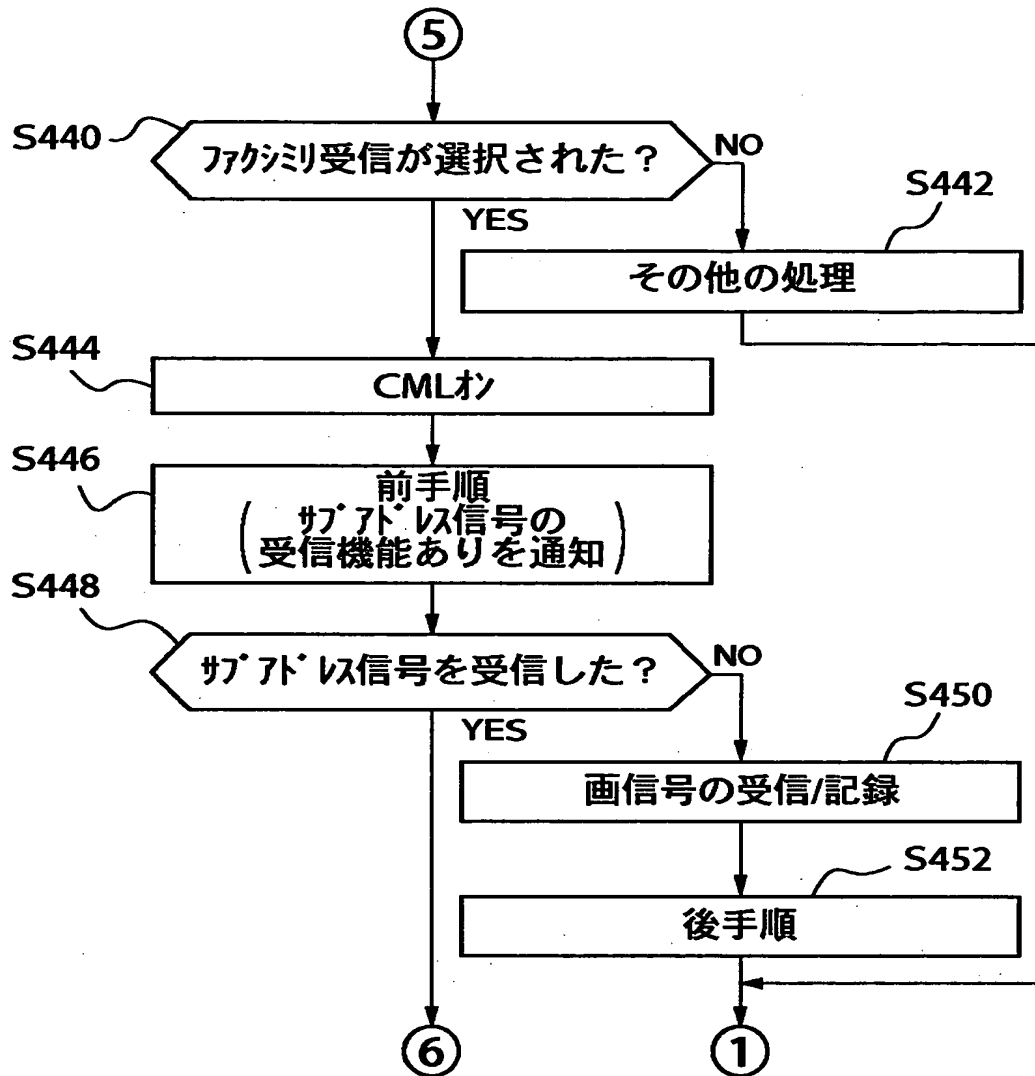
【図 6】



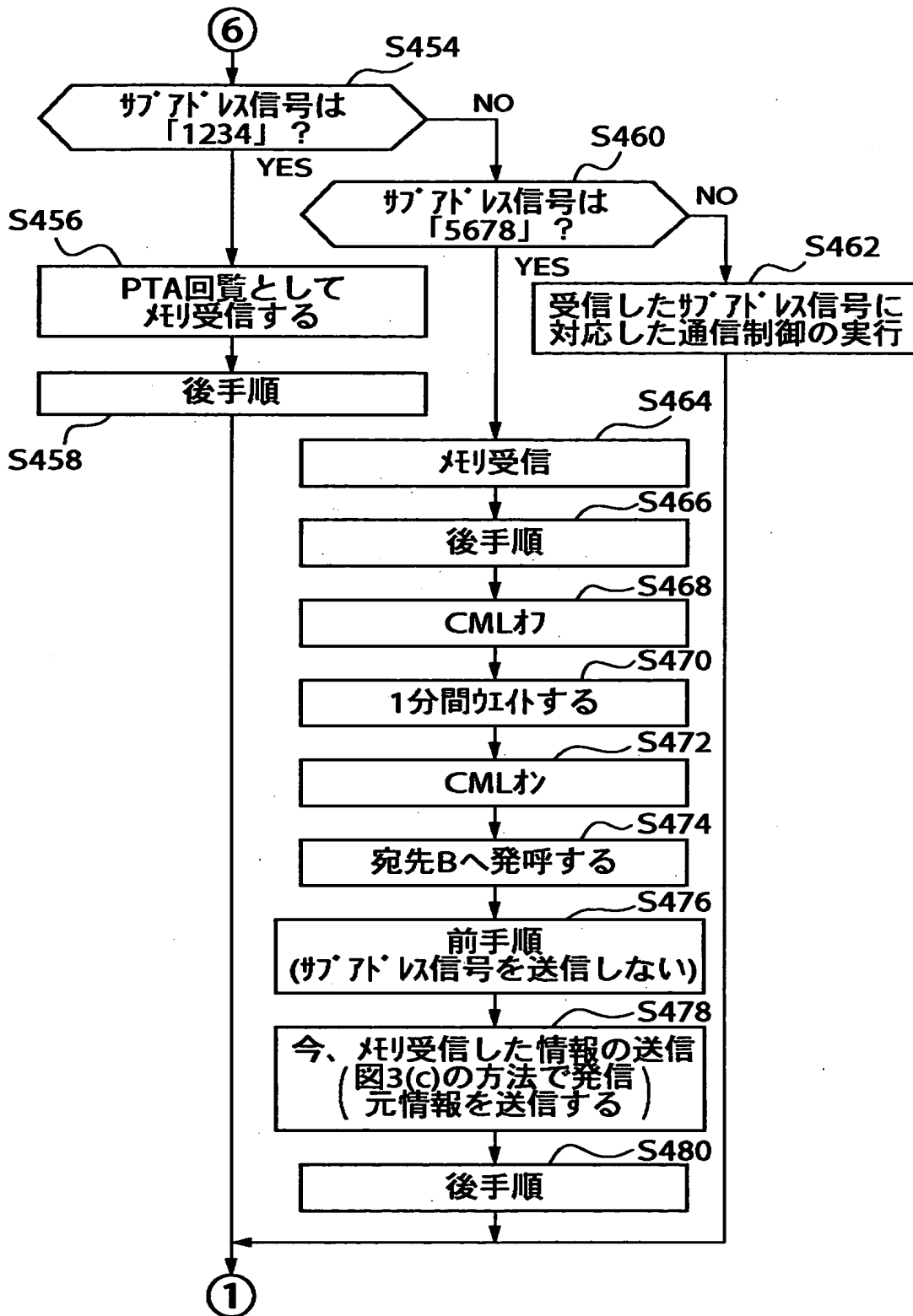
【図 7】



【図 8】



【図9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 使い易いファクシミリ装置を提供する。

【解決手段】 CPU 2 2 によりメモリボックスに対応して、サブアドレス信号及び通信仕様を登録し、リング型同報送信のスタートを選択し、リング型同報受信の転送を選択し、リング型同報送信のスタートが選択されたときは発信元情報を付加し、リング型同報受信の転送時は発信元情報を付加しないように制御する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名 キヤノン株式会社